

授業科目名	クリティカルケアⅡ			担当教員	福島 綾子、苑田 裕樹 清末 定美
開講年次	3年前期	セメスター	5	時間数(単位数)	30 (1)
必修選択	必修	授業形態	演習	使用教室	
授業の目的	救急およびクリティカルな状況下にある患者への看護を展開するための方法を習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリティカルな状況下にある患者の呼吸／循環／意識について評価できる</li> <li>・予測的視点に基づき、対象者が持つ個別的なリスクや合併症についてアセスメントできる</li> <li>・アセスメントの結果から、科学的根拠に基づいた具体的・個別的看護援助方法について考えることができる</li> </ul>				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
1	【授業ガイダンス】 科目の位置づけ、授業スケジュール 事前・事後課題、演習進め方 について	講義	予習：クリティカルケアⅠ講義資料の振り 返り（確認テスト）	2時間	福島
2	【クリティカルケア看護に必要な看護 技術】 急変時の看護 救急処置を必要とする患者の看護	講義 演習	予習：救急看護学第5章「主要病態 に対する救急処置と看護」 復習：事後課題	各 1時間	苑田
3	【クリティカルケア看護に必要な看護 技術】 水分出納の管理、モニタリング	講義	予習：クリティカルケアⅠ資料の振り返 り	1時間	福島
4	【受け持ち患者の状態をアセスマ ントする】 病態・症状から観察項目を検討・ 立案する	演習	予習：事例患者の病態についての理 解を深める 復習：事後課題	各 2時間	福島 苑田 清末
5	【受け持ち患者の状態をアセスマ ントする】 ・意識レベルの評価 ・人工呼吸器の管理 ・ドレーン／チューブ類の管理	演習	予習：クリティカルケア看護学第2章 「クリティカルな患者のアセスメント」 復習：事後課題	各 2時間	清末
6	【受け持ち患者の状態をアセスマ ントする】 家族への看護	演習	予習：クリティカルケア看護学第1章 「クリティカルケアを必要とする患者・家 族の特徴」、 第5章「危機状態にある患者・家族 へのケア」	2時間	福島
7	【受け持ち患者の状態をアセスマ ントする】 ・受け持ち患者に必要な観察項目の検 討	演習	予習：事例患者の観察項目の立案 復習：事例患者の観察に必要な手技、 結果のアセスメント方法の検討（オフ スワーを活用する）	各 2時間	福島 苑田 清末
8	・フィジカルアセスメント／モニタ リングの手技の練習 ・結果のアセスメント方法の検討				

9	【受け持ち患者の状態をアセスメントする】 受け持ち患者に観察とアセスメント	演習	予習：事例患者の観察項目の立案、手技の獲得 復習：事例患者のアセスメント、問題点の抽出	各 2時間	福島 苑田 清末
10					
11	【受け持ち患者の状態をアセスメントする】 受け持ち患者の観察結果から現在の状態についてアセスメントし、問題点を抽出する	演習	予習：事例患者の看護展開 復習：事例患者の看護展開	各 2時間	福島 苑田 清末
12	【受け持ち患者への看護計画の検討】 抽出された看護問題への介入方法を検討する	演習	予習：事例患者の看護過程の展開 復習：看護計画についての検討、発表資料の作成	各 1時間	福島 苑田 清末
13	【受け持ち患者の看護展開】 看護計画の発表会	演習	予習：発表会に向けての資料作成、技術演習（オフィスアワーを活用する）	2～3 時間	福島 苑田 清末
14					
15	【まとめ】 クリティカルな状況にある患者への看護展開についてのフィードバック	演習	復習：定期試験に向けての確認	2時間	福島 苑田 清末
先行履修科目	2年後期までに履修すべき全ての科目				
テキスト	1) 道又元裕 他：系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学. 医学書院, 2008. 2) 山勢博彰・山勢善江 他：系統看護学講座 別巻 救急看護学. 医学書院, 2013.				
参考文献	寺町優子・井上智子・深谷智恵子 編集：クリティカルケア看護 理論と臨床への応用. 日本看護協会出版会, 2007. その他：適宜提示する。				
メッセージ	ICU や CCU などで行われている看護は、特殊な技術を用いているように捉えられていることが多いのですが、実際には看護の基礎を理解した実践が求められている領域だと思っています。病態が複雑であったり、重症で高度な治療が必要だったりするかもしれませんが、対象となる患者はその中で生活している人です。これまで学習した知識や観察の技術、日常生活援助の技術のすべてを駆使し、患者に合わせた工夫をし、小さな反応を見逃さずにケアを行っていくことが必要です。 難しいこともあると思いますが、命を救い、生を支える看護をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。				
科目の位置づけ	本科目は、クリティカルケア I で既習の「生命の危機的状況にある患者および家族への看護」についての知識を発展させ、患者の観察方法（フィジカルイグザミネーション / モニタリング / 検査データの見方）、患者アセスメント、および看護ケアの実際を学ぶための演習科目である。また、クリティカルケア実習前の演習科目として、事例を通し重症患者への看護過程についても学ぶ。 講義・演習を通じて自らの課題を客観的な視点から見出し、クリティカルケア II だけでなくクリティカルケア実習で目標達成するための継続的な取り組みを行えるよう位置付けている。				
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
		◎	○		
評価方法	筆記試験 60%、確認テスト 10%、事前・事後課題、計画発表会 30% 授業への主体的な参加など（遅刻など - 1点、欠席 - 2点）を総合的に評価する。				